

## 1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

中期目標を基本的な知識・技能の確実な習得から、根拠をもとにした思考力、判断力、表現力等を身につけた生徒の育成とし、令和2年度の成果指標として、令和3年「全国調査の標準化得点100以上」を設定していたが、標準学力分析検査においても、「県平均得点(50)以上」を目指す。

## 3. 指標にむけての取組

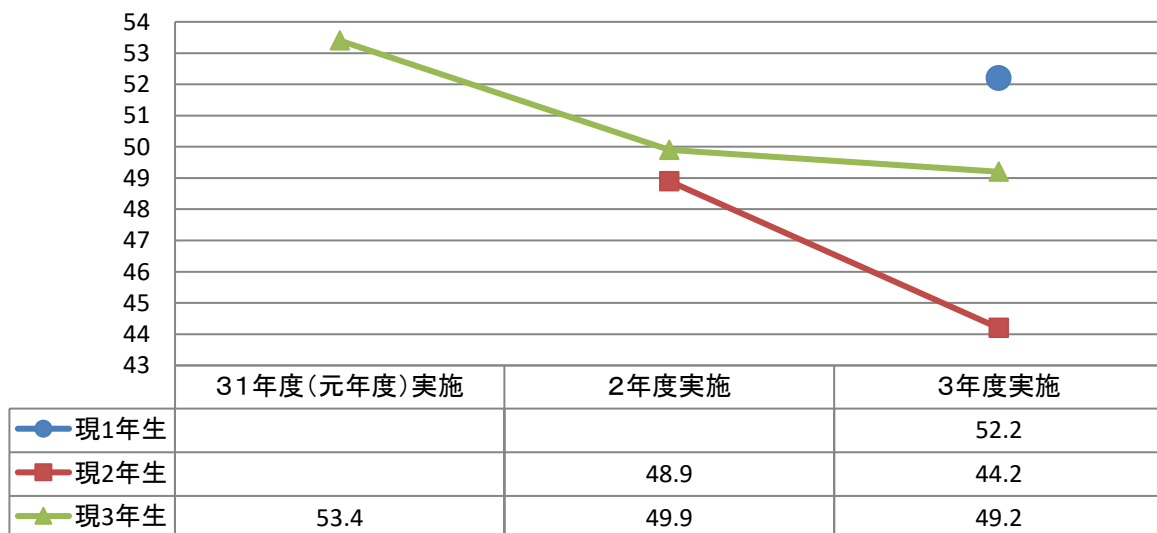
- ・各種アンケートや検査の結果から、「導入の工夫」や「かく」活動の工夫を通じた授業改善。
- ・基礎基本的な知識の習得として、年3回の学習コンクールや、学力向上のための嘉穂中ステップアップタイム(KST)の全校実施。
- ・学力向上委員会として、HR学習と連動した自学ノートや週末課題等の家庭学習の提示。
- ・「鍛ほめ」の具体的な取組として、希望者による年2回の校内英検の実施。

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	29年度	30年度	31年度 (元年度)	2年度	3年度
本校A	51.2	51.3	51.6	50.4	48.5
嘉麻市(B)	47.9	49.3	48.8	48.6	47.1
(A) - (B)	3.3	2	2.8	1.8	1.4
標準偏差値との差 (A) - (50)	1.2	1.3	1.6	0.4	-1.5

## 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- ・現2年生においては、学習コンクールに向けて、適切な目標設定や学習に対する努力など学習方法について学び、最終的には目標達成できた成功体験を納めた。しかしながら、基礎学力が定着していないC層やD層への支援はTT以外特化する手立てを持たないままであった。さらに、家庭学習の定着が不十分であることも今回の結果の1要因であると考えられる。
- ・現3年生においては、朝の学習と帰りの小テストを定着させ、学習習慣の定着を図った。家庭学習の提出率もほぼ100%に近い。しかしながら、2年時の結果と比較すると、C・D層の若干の増加がみられた。学習内容の難化に応じた、意欲の低下やチャレンジ精神の鈍化が考えられる。

## 6. 各学校における今後の取組

- ・学力向上委員会や教科部会等で各種テストの分析と改善策を出し合い、カリキュラムマネジメントを通して、知識・技能の定着とそれらを活用した思考力・判断力・表現力の育成に努める。
- ・電子黒板やカスタの利用等、ICTの利活用を視野に入れた授業改善を本校の研究主題とし、その活用方法の可能性を探る。
- ・全生徒を対象とした教育相談を実施し、各種アンケートの結果から困り感を示した生徒への早期支援、早期介入として小集団学習や個別の支援を充実させる。
- ・小集団への学習支援としては、英語や数学でのTTや補充学習、生徒の実態に応じた習熟度による学習支援を実施する。
- ・本年度も昨年度同様、学習コンクール、嘉穂中学校ステップアップタイム(KST)、家庭学習の充実に向けた支援と指導、英検の校内実施、朝と帰りのホームルーム学習を継続して行う。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「GoTo授業づくりチェック20」・「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
  - ◆嘉麻市学力向上推進員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
  - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。